第五節　朝鮮陸軍倉庫

（昭和十九年以後朝鮮貨物支廠と改称す）

朝鮮軍部隊に被服糧秣衛生材料獣医材料を補給し併せて戦用品の貯蔵を主任務とするが昭和十二年以後は之等軍需品の品種及び数量共に増加し工場の誘致開発培養より購買貯蔵に至るまで統轄せりこの為倉庫は不足し民間倉庫を有料借上げ各地の信頼あるものを其の倉庫看守として無給嘱託としたるが其数は極めて多数に上れり

倉庫は全鮮に設置せられ就中乾草馬糧の集積は山間僻地にして輸送の面に於ても当該地方の民力の奉仕に俟つこと多かりき

斯くして朝鮮貨物廠の昭和十八年度予算は一億五千萬円なりしが昭和十九年度には三億三千萬円に上れり

其昭和二十年八月終戦時に於ける集積軍需品は全鮮にて約一億八千萬円程度にて登録済のものにして工場から材料補償を要するものは約三千萬円内外なり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

之等の債権債務の処理は北鮮咸鏡道の戦斗発生したる一部を除き全鮮に亘り完全に終了せり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp